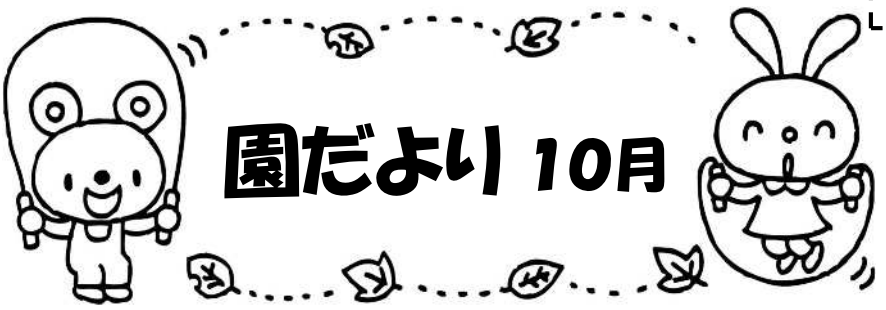
教育目標　すくすく　ぐんぐん　にこにこ



園だより 10月

令和４年９月３０日
第５３４号
北区立じゅうじょうなかはら幼稚園

園長　髙沢　ゆみか

ブロッコリーの鉢

朝晩めっきり涼しくなり、過ごしやすい季節になりました。園庭のキンモクセイが甘く香り、子どもたちが「なんだかいいにおいがする」「どこからいいにおいがしてくるのかな？」と香りに気付いて、木々を見上げています。一方で、日本各地で台風や豪雨の被害が相次いでいます。被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げるとともに、これからの季節、新たな被害がないことを祈るばかりです。

台風などが近付いたときには、特に物が飛んだり倒れたりしないように園でも対策をしています。９月は、二度あった三連休の度に台風が接近しました。二度目の連休前、「お休みの間にまた台風が来るかもしれない」と知った年長さくら組の子どもたちは、担任と一緒に、親子栽培の自分の鉢を強い風雨に当たらないところに移動させました。おうちの方と一緒に苗を植えて、生長を楽しみにしながら大切に世話をしているブロッコリーの鉢です。強い風雨で茎や葉が痛んでしまっては大変です。実は、一度目の連休中の台風のとき、茎が少し傾いたり、苗に元気がなくなってしまったりしたものがありました。子どもたちは、担任や友達と力を合わせて鉢を移動させながら、口々に台風について自分が知っていることを話したり、「これなら大丈夫だね」「あれも動かしておいた方がいいんじゃない？」などと気付いたことを話し、台風が来たときのことを考えながら園庭を見回したりしていました。大切にしているものを守りたいという思いが、風雨を避けるために鉢を動かす必要感となり、一人一人が台風接近という身近に起きた事象を自分の事として受け止め、考えていました。こうした姿と学級全体の頼もしい雰囲気に、子どもが主体的に自分たちで生活をつくっていくとはこういうことだ、と教えられた気がしました。

子どもが知らないところで、大人が鉢を移動させておくことは簡単です。しかし、生活に必要なことの中で子どもができることは、時間がかかっても発達段階に応じて経験できるようにしていきたいものです。本来、幼い子どもは「なんでもやってみたい」「自分でやりたい」という気持ちに溢れています。子どもを信じて任せてみたり、共に生活する仲間として同じ目線で子どもと一緒に取り組んでみたりすると、子どもの思わぬ力に驚かされることがあります。一方で、子どもが困らないように大人が先回りしてやってあげることは、必ずしも子どものためになることばかりではなく、子どもが困ったり、失敗したりする機会を奪っている場合もあります。これらの機会がなければ、子どもは、どうしたらよいか考えたり、へこたれず諦めずに取り組んだりする機会も失ってしまいます。今年度の生活も間もなく後半に入り、充実の時期を迎えます。必要な経験をしっかりと考え、子どもたちが「自分の力で生活をしている実感」を大切にしたいと思っています。

今月の指導のねらい

＜ちゅうりっぷ組＞

- 自分の思いやイメージを動きや言葉で表したり、友達に伝えたりする楽しさを感じる。
- みんなで一緒に過ごすことを楽しみにし、自分の動きを伸び伸びと表す。

＜さくら組＞

- 一日の流れや生活に必要なことが分かり、見通しをもって生活しようとする。
- 友達と遊びや生活を進める中で、目的やイメージを共通にして取り組むことの楽しさを味わう。